

令和5年度

# 研究紀要

第56号

## 研究主題

新しい時代を切り拓く互いの力と

豊かな心を育て合う特別活動の創造

東京都中学校特別活動研究会

## 研究紀要目次

研究紀要第56号に寄せて .....	1
会長 品川区立鈴ヶ森中学校 校長 滝沢 二三雄	
令和5年度の研究について .....	2
事務局長 葛飾区立高砂中学校 副校長 瀬戸 完一	
研修会の報告 .....	3
(1) 第1回研修会 令和5年7月28日(金) 特別活動カンファレンス 調布グリーンホール 大ホール	
(2) 第2回研修会 令和5年12月26日(火) 狛江市立狛江第一中学校 生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会 講師 狛江市教育支援センター センター長 美谷島 正義 先生	
(3) 宿泊研修会 令和5年8月20日(日)・21日(月) 箱根路開雲	
第22回 東京都中学校生徒会長サミット 報告 .....	13
(1) 全体会報告	
(2) 分科会報告	
第52回 全日本中学校特別活動研究会 埼玉大会 報告 .....	20
令和5年度東京都教育研究員研究発表会 報告 .....	24
講師派遣事業 報告 .....	30
会則 .....	32
令和5年度 事務局員 名簿 .....	34

## 研究紀要第56号に寄せて



東京都中学校特別活動研究会  
会長 滝沢 二三雄  
(品川区立鈴ヶ森中学校)

研究紀要第56号の発行に当たり、本研究会を代表してご挨拶させていただきます。今年度、本研究会は、研究主題を「新しい時代を切り拓く互いの力と豊かな心を育て合う特別活動の創造」として研究と実践を重ねてきました。本年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、季節性のインフルエンザと同じ扱いになりました。それに伴い、以前のような特別活動を再開する学校とコロナ禍で縮小や工夫した内容を生かして実施する学校とに分かれたように感じます。本研究会は毎月の事務局会について対面に戻すと同時にコロナ禍で始めたオンラインでの参加も行うこととしました。それによって今までは参加できなかった会員が参加できるようになりました。また、オンラインでの参加を活用して、本年度後半からは、事務局会の開始一時間前から研修会を行うことになりました。これは、対面での研修会にオンラインで他府県からも参加できるようにしたものです。多くの参加ではありませんが、毎回の研修会にはいくつかの県から参加があり、お互いに情報交換をしたり、テーマに沿った意見交換をしたりと有意義な時間を過ごすことができます。

他には、夏の研修会について今年度は、東京都教育委員会主催の「特別活動カンファレンス」で本会の役員2名が実践発表をいたしました。内容は学級活動(1)のAについて具体的な事例を挙げての発表でした。全都の中学校から参加することになっていたのも、大変多くの先生方が集まり特別活動の魅力を十二分に伝えることができ、大盛況でした。本研究会はこのカンファレンスを夏の研修会といたしました。もちろん生徒会長サミットも対面で予定通り実施しました。サミットは前回からオンラインで島しょ部の参加ができるようになりました。これも新しい形でのサミットの参加形式ですが、対面での話合いには勝ることはできません。これらの活動の内容や成果につきましては、この研究紀要にまとめてございますのでご覧いただくと幸いです。新しい時代を切り拓く子供たちに豊かな心を育てるのが特別活動の役目であるということを自覚し、特別活動の充実や指導力の向上に向けて、本研究会としても今後も充実した情報発信ができるよう、努めてまいりたいと存じます。

今後とも本研究会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 令和5年度の研究について

### 研究主題

新しい時代を切り拓く互いの力と豊かな心を育て合う特別活動の創造

- 1 定期総会                      令和5年5月28日（日）    品川区立鈴ヶ森中学校
  
- 2 研修会
  - (1) 第1回研修会    東京都教育委員会主催「特別活動カンファレンス」  
令和5年7月28日（金）    調布グリーンホール 大ホール  
＜実践発表 発表者＞  
練馬区立大泉学園中学校              副校長    藤本 謙一郎  
東村山市立東村山第五中学校    指導教諭    吉川 滋之
  
  - (2) 第2回研修会    第22回東京都生徒会長サミット    生徒会担当教員研修会  
令和5年12月26日（火）    狛江市立狛江第一中学校  
＜講 師＞  
狛江市立教育支援センター    センター長    美谷島 正義 先生
  
  - (3) 宿泊研修会    令和5年8月20日（日）・21日（月）    箱根路開雲
  
- 3 第51回    全日本中学校特別活動研究会    埼玉大会    令和5年8月7日（月）
  
- 4 生徒会長サミット    令和5年12月26日（火）    狛江市立狛江第一中学校
  
- 5 事務局会    年間9回実施  
品川区立鈴ヶ森中学校、江戸川区立松江第五中学校、狛江市立狛江第一中学校
  
- 6 会報発行    第103号、104号の発行
  
- 7 研究紀要発行    第56号の発行
  
- 8 東京都中学校特別活動研究会のホームページの運営

## 第1回研修会の報告（東京都教育委員会主催「特別活動カンファレンス」）

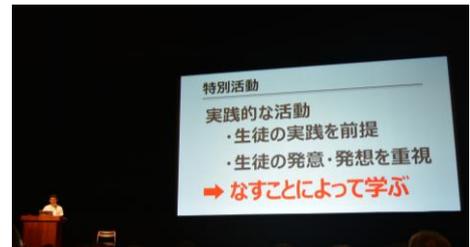
- |   |     |  |
|---|-----|--|
| 1 | 日 時 | 令和5年7月28日（金）                               |
| 2 | 場 所 | 調布市グリーンホール 大ホール                            |
| 3 | 内 容 | 「学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」について、講義と実践発表 |
| 4 | 講 師 | 筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 先生                        |
|   | 講 演 | 学級活動（1）アに関する学習指導の在り方等について                  |

7月28日（金）、東京都教育委員会主催の「特別活動カンファレンス」が行われました。本研究学会より2名、実践発表を行いましたので、今年度の第1回研修会を併せて開催させていただきました。

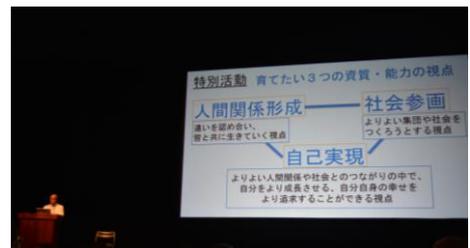
はじめに、東京都教育委員会挨拶、そしてカンファレンス開催についての説明がありました。子ども基本法第3条第3項において、「年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する企画及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」とあります。また、中央審議議会答申（令和3年1月）の『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』では、「急激に変化する時代の中で（中略）多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められる」ともあります。これらのことから、「子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力を育成する指導の充実が求められている」と説明され、特別活動の「自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てる」ことに着目し、特に「学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」の指導について、指導の在り方の講義と実践例を通して、都内の先生方と共に理解を深めるため、開催されました。

次に、筑波大学人間系教授藤田晃之先生から、「学級活動（1）アに関する学習指導の在り方等について」という演題で講演がありました。「学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画」の「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること」に関する指導の在り方について、詳しい説明がありました。一方で、小学校時代はよく発言していた生徒でも成長するに伴って発言が消極的になるので、生徒の現状に応じて取り組ませることの大切さについても話がありました。中学校学習指導要領解説特別活動編にも、「自己の生き方に不安を抱き、自己を見失う生徒もおり、また、挫折や失敗によって、自信のない生き方をしている生徒も少なくはない。現実から逃避し、今の自分さえよければよいといったように自分自身の成長の可能性を自ら閉ざすことなく、他者、社会、自然などの環境との関わりの中で生きるという自覚を伴って成長していくことができるようにすることが大切である。」と記載されています。私たち教師は、そういった生徒の現状を理解して、指導にあたらなくてはいけないということを強く感じました。

続いて、区部と市部から1つずつ実践発表がありました。区部の代表である練馬区立大泉学園中学校副校長藤本謙一郎先生の事例からは、3年間を通して学級活動(1)アに取り組んだ事例が発表されました。「クラスの課題を話し合うこと」「クラスの和を深めるために話し合うこと」「卒業までの学校生活を充実させるために話し合うこと」の3つの取組について動画で紹介されていました。学級会を毎回丁寧に実施することで生徒の自発的、自治的な学校づくりへの意識が高まり、それまで集団としてのまとまりに課題があった生徒集団が立派に話し合い活動やその後の実践を行うようになったということで、特別活動のよさを実感できる報告でした。



さらに、市部の代表である東村山市立東村山第五中学校指導教諭吉川滋之先生の事例からは、議題「クラスの皆とさらに仲良くなる方法を考えよう」の取組を通して、学級活動のサイクルを提示されました。①問題を発見・確認する②代表者会(計画委員会)で議題・提案理由の設定や活動計画の作成などを具体的に③学級会で話し合い活動を充実させ合意形成を行う④決めたことを実践して振り返りを行う、という流れをサイクルにするというものです。また、学級会では「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の三段階の話し合いや活発に意見を交わすために小集団での話し合いの工夫についても述べられていました。動画も紹介され、生徒の自発的な話し合いが進み、課題解決に向けて合意形成する様子が印象的でした。



それらの発表を受け、再度藤田先生からそれぞれの実践に関する話とまとめの話をさせていただきました。最後に参加者同士の情報共有を行い、カンファレンスは終了となりました。特別活動の情報量が豊富で、参会された先生方にとって今後の教育活動につながる研修会になったと思います。次年度も開催予定と聞いていますので、それまで各校での実践を深め、参加者同士がその後の取組について話し合えることを楽しみにしています。

## 第2回研修会の報告

- 1 日 時 令和5年12月26日（火）
- 2 場 所 狛江市立狛江第一中学校 視聴覚室
- 3 内 容 生徒会担当者の役割
- 4 講 師 狛江市教育支援センター センター長 美谷島 正義 先生

令和5年度第22回生徒会長サミットにおいて、生徒引率の生徒会担当教師を対象に講師の美谷島正義先生から、「自主的、実践的な態度を育てる特別活動指導のポイント」として、特別活動の基本的な考え方や、学級活動を基盤として、生徒会活動、学校行事が充実されていくことなどを、具体的な例を示しながらわかりやすく講義していただきました。また、生徒会活動の目標や内容、生徒会担当者の役割等、生徒会活動を活性化するためのヒントになる指導もしていただきました。そして、生徒会活動が学校運営上においても重要な役割を担っていることについての説明がありました。大変有意義な研修となりました。



# 自主的,実践的な態度を育てる 特別活動指導のポイント

折角、「生徒会長サミット」で来られた先生方指導者の皆様へのお礼とそして、ご健勝を祈念して

令和5年12月26日 狛江市立狛江第一中学校  
狛江市教育支援センター長 美谷島 正義

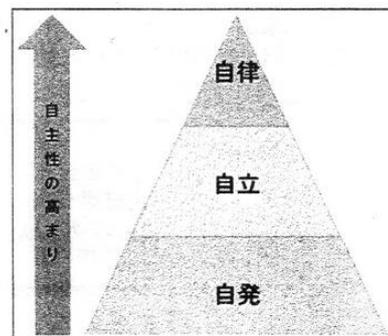
1

# 自主的,実践的な態度を育てる 特別活動指導のポイント

## • 自主的とは

◎これからの生徒に身に付け  
させたい資質や能力は何?  
その「根っこ」は?

## • 実践的とは



2

## 特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

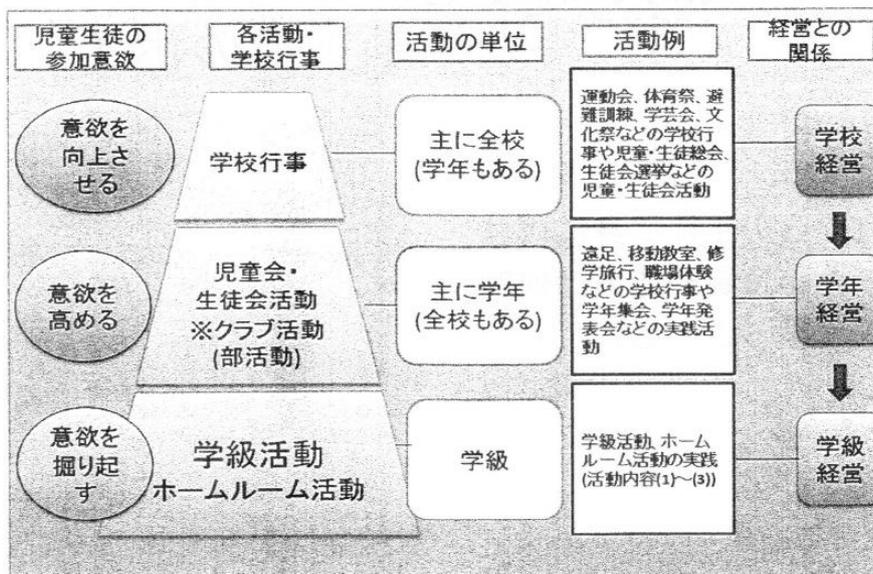
特活としての  
「知識・技能」

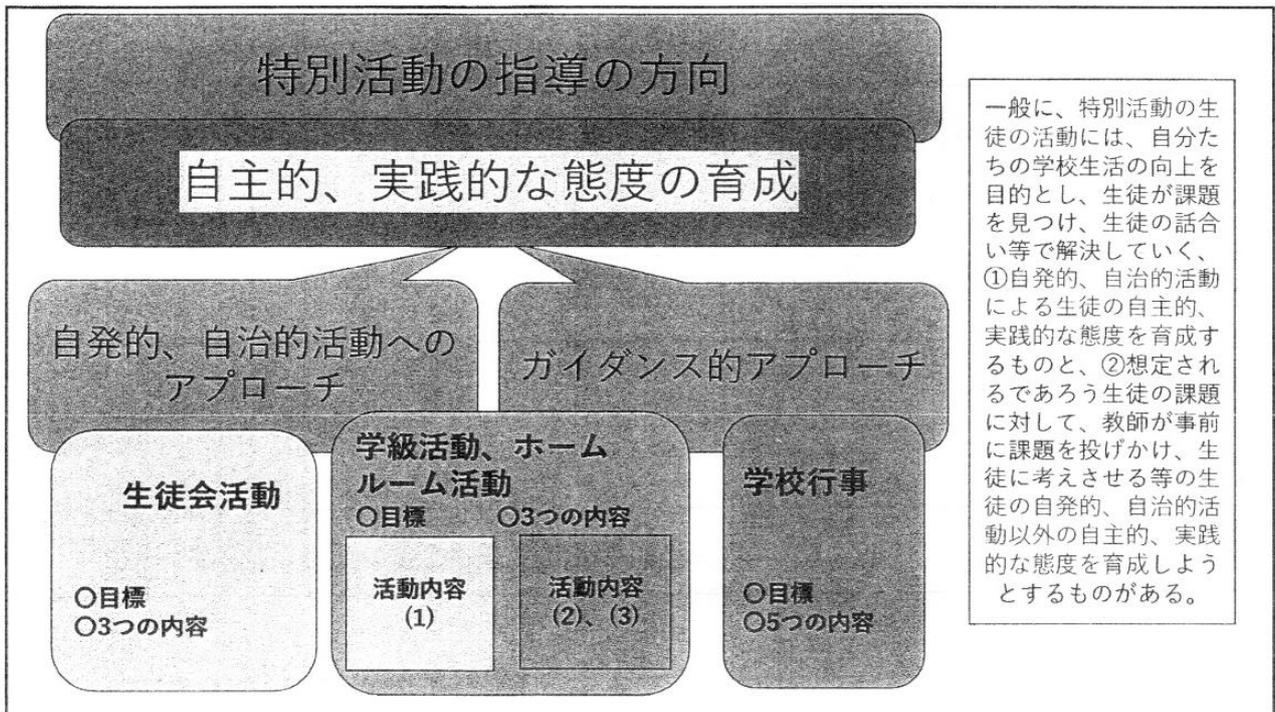
特活としての  
「思考力・判断力・表現力」

特活としての  
「学びに向かう力・人間性」

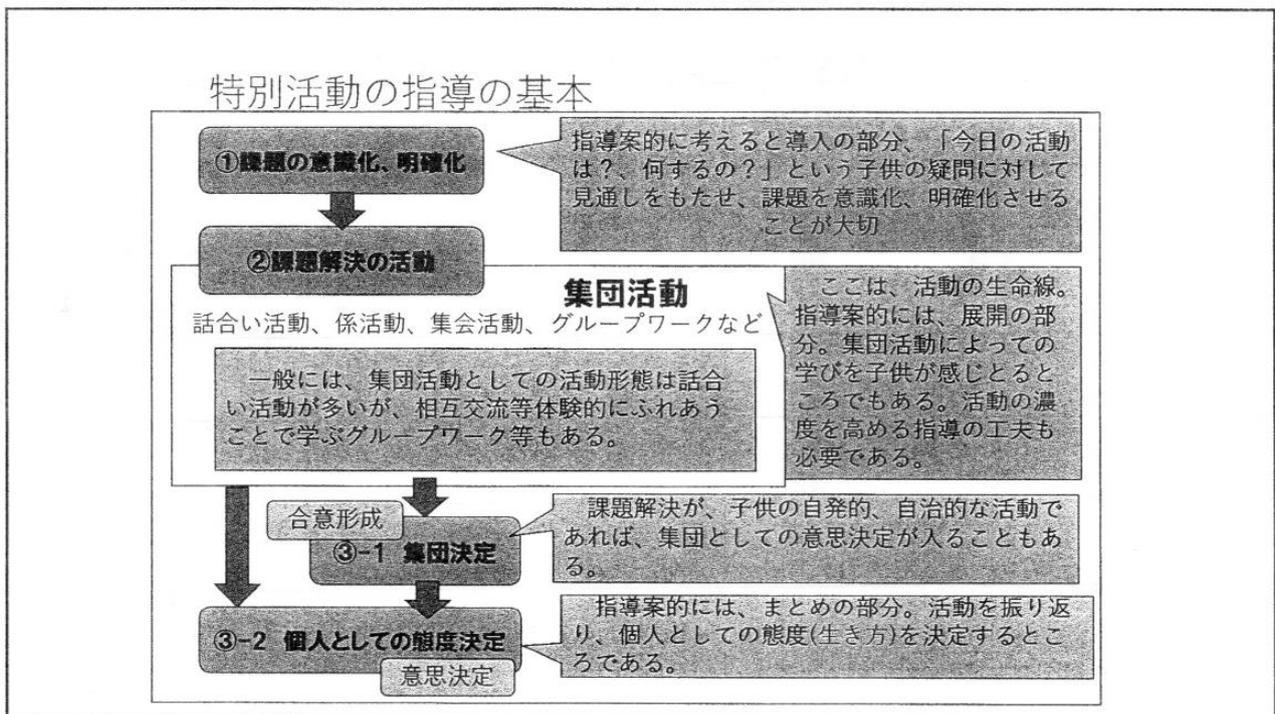
3

## 特別活動の内容構成と構造





5



6

## 宿泊研修会の報告

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 1 日 時 | 令和5年8月20日（日）・21日（月） |
| 2 場 所 | 箱根路開雲               |
| 3 内 容 | 特別活動に関する情報交換        |

4年ぶりに宿泊研修会が開催されました。令和5年8月20日、21日の一泊二日で、箱根湯本の「箱根路開雲」を会場に、参加者持込の資料を検討したり、これまでの特別活動研究の歴史を紐解いたり、普段の研修会とはまた違った趣のある会となりました。特に今回は歴代会長先生や事務局でご活躍されていた先生方が多数参加され、昨年度創立60周年を迎えた本会の伝統と歴史を学べる研修会でもありました。

各自が用意して提案された内容としては、「特別活動の指導について」「『特別活動の目標』の達成度についてのアンケート調査結果（江戸川区立中学校3年生3254名回答）」「特別活動の学習指導要領上の変遷とホームルーム活動の始まりについて」「中学校におけるキャリア教育（足立区立第十二中学校）」「第22回生徒会長サミットについて」「学習指導要領解説から読み解く『発達的な特質を踏まえた指導』」「研究開発委員会資料」などがありました。

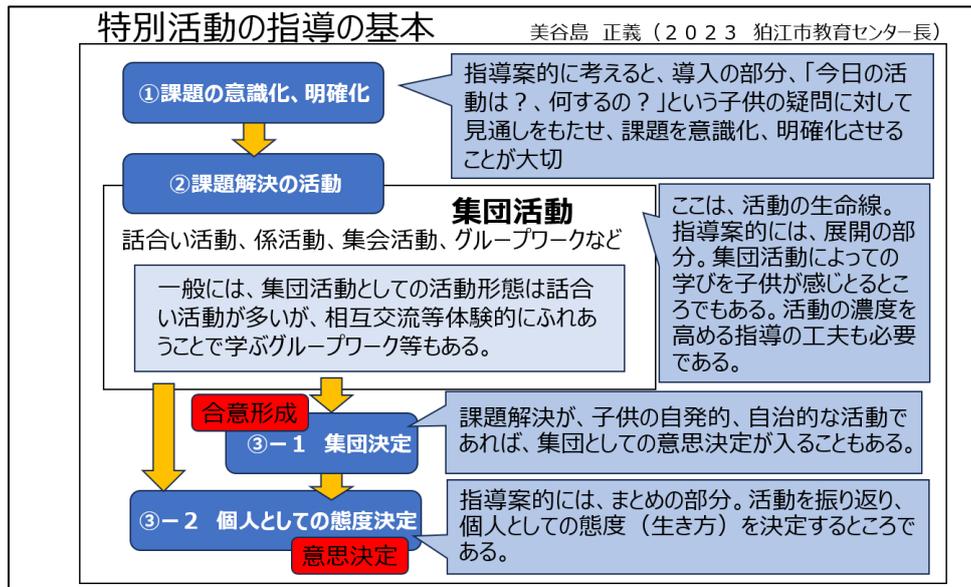
2時間半の時間があっという間に経つほど、様々な情報が凝縮された研修でした。ご参会の皆様、ありがとうございました。

### 【当日の様子】



## 【当日配付資料より】

### 特別活動の指導について



### 学習指導要領解説特別活動編から読み解く「発達的な特質を踏まえた指導」

※小学校学習指導要領解説特別活動編・中学校学習指導要領解説特別活動編・高等学校学習指導要領解説特別活動編よりそれぞれ抜粋

#### 【小学校】

##### ア 低学年

（中略）小学校への入学当初においては、幼児期の自己中心性がかなり残っており、学校の中の児童相互の関係は、個々の児童の集合の段階にある。さらには、言ってよいことと悪いことについての理解はできるようになるが、感情的な言動等が多く、入学期に小学校生活や集団生活にうまく適応できなかったり、このことによって授業が成立しにくい状況が生まれたりすることなども考えられる。しかしながら、幼稚園教育要領の「人間関係」の領域などの教育や社会性を育む幼児期の教育では、友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げることもできるようになっている。そのため、第1学年については、幼児期の教育で養われた力を生かしながら、小学校における生活や人間関係に適応できるようにすることが大切である。

第1学年後半になると、教師を中心とする学級への所属感や一体感があらわれ始める。しかしながら、社会性に関する個の発達の差は大きく、グループで活動する児童も多く見られる一方で、他者と関わるよりも一人で過ごしたい児童や他者との関わりを苦手とする児童もいる。またグループで活動する際、他者の気持ちや感情を理解しようとする児童もいる一方で、自己中心的な関わりをする児童もいる。

第2学年になると、活動の中心となる児童が目立ち始め、他人の立場を認めたり、理解したりしようとする態度や、よりよい学級生活を築こうとする自主性なども次第に高まってくる。学級の中のそれぞれの集団は、仲間としての結び付きもその期間も次第に長くなり、その成員数も増え、小グループでの

協働的な活動ができるようになってくる。また、学級全体に目を向けたり、人間関係を少しずつ広げていったりするようになる。さらには、役割を分担して活動したり、きまりの大切さを認識して生活したり遊んだりすることができるようになる。

#### イ 中学年

第3学年になると、集団における個々の結び付きや集団としての閉鎖性が次第に増え、協力して豊かな学級生活をつくろうとする小集団による活動が盛んになる。また、この時期は、集団感情や集団意識が強くなり育ってきて、いわゆる「われわれ意識」などの社会意識が高まっていく。しかし、指示する者とされる者が次第にはっきりしてきて、それぞれの小集団が分立し、集団同士の対立や集団に安易に賛成するような行動も見られるようになってくるなど、学級全体としてのまとまりが育ちにくい時期でもある。集団活動を行うにしても、それぞれの集団での活動目標について、ある程度共通に理解し、持続して活動することができるが、まだ、個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属する成員の間にはっきりとした社会的関係があらわれにくい。

第4学年になると、集団の活動目標の達成に主体的に関わったり、協働的な活動に取り組んだりして、リーダー的な児童を中心に教師の力を借りなくても、ある程度の計画的な活動ができるようになり、自分たちできまりをつくって守ろうとするなどの主体性も増してくる。また、クラブ活動に参加するなど、学級生活のみでなく学校生活全般に興味・関心を広げ、自発的に活動しようとする意欲が強くなる。また、男女の活動の違いも見られるようになり、男女間の問題や葛藤も生じやすくなる。

#### ウ 高学年

第5学年になると、中学年までの経験を生かして、自分たちで決めた集団の活動目標をできるだけ大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながらこれを達成しようとする感情や意識が強くなる。学級全体としてまとまった活動ができるようになり、他者の長所や短所なども相対的に捉えられるようになるとともに、目標を実現するために、互いに信頼し支え合って活動することを強く求めるようになる。また、集団としての実践や自分の言動について振り返り、改善するなどしてよりよい生活を築こうとする意欲が高まっていく。さらには、児童会活動やクラブ活動の運営に参加するなど、学校生活の改善や向上にも目を向け、学校全体の集団をまとめようとする意識や活動も見られ、自分の役割や責任などについての自覚が深まっていく。

その一方で、思春期にさしかかるこの時期の児童は、ときに、理想主義的であり、一面的で独断的な傾向になりやすく、相手に批判的になったり自分の価値判断に固執しがちになったりする。また、他者と自分を比較して自分に自信がもてなくなったり、些細なことで他者との関係が壊れたり、他者への不信感をもったり、傷付いたりして、悩みや不安を感じるようになる。また、この時期の学級は、心身の成長の差がより大きくなる中で、共に生活していることも特徴の一つである。

第6学年になると、児童会活動やクラブ活動、学校行事などにおいて中心的な役割を担うようになり、最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度も育ち、役割や責任を自覚して活動するようになる。また、思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動することに消極的になったり、中学校生活への不安を抱きながら生活したりする児童も少なくない。

#### 【中学校】

(中略)中学生の時期には、自我の目覚めや心身の発達により自主独立の要求が高まることから、生徒の自発的、自治的な活動を可能な範囲で尊重し、生徒が自らの力で組織を作り、活動計画を立て、協

力し合って学びに向かう集団づくりができるように導くことが大切になる。

しかし、生徒の自主性が高まるとはいえ、生活体験や社会体験もまだ十分でなく、自分の考えにも十分な自信がもてない時期でもあるため、当然教師の適切な指導や個別的な援助などが必要である。そのためには、個々の生徒をよく理解するとともに、集団の場面における指導や個別的な援助の在り方の工夫に努め、生徒の自主的、実践的な活動を促していくことが大切である。また、学校生活においても、新しい友達との出会いや、教科担任制による多様な教師との出会い、社会的関心の広がり、そして進路の選択など新しい環境や課題に直面していく時期である。そうした中、生徒は、現在及び将来における自己の生き方について模索し始めるが、個々の価値観が多様化し、人間としての生き方にも様々な変化や問題点が生じている現代の社会にあつては、全ての生徒が望ましい生き方を自覚し、これを深められるとは限らない。中には、自己の生き方に不安を抱き、自己を見失う生徒もあり、また、挫折や失敗によって、自信のない生き方をしている生徒も少なくはない。現実から逃避し、今の自分さえよければよいといったように自分自身の成長の可能性を自ら閉ざすことなく、他者、社会、自然などの環境との関わりの中で生きるという自覚を伴って成長していくことができるようにすることが大切である。

#### 【高等学校】

(中略) 高校生の時期には、自我の形成や心身の発達により自主独立の要求が高まることから、生徒の自発的、自治的な活動をできる限り尊重し、生徒が自らの力で組織を作り、活動計画を立て、協力し合って、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような集団づくりができるように導くことが大切になる。しかし、生徒の自主性が高まるとはいえ、生活体験や社会体験もまだ十分でなく、自分の考えにも十分な自信がもてない生徒も少なくないため、教師の適切な指導や個別的な援助などが必要である。そのためには、生徒の心情をよく理解するとともに、指導の在り方の工夫に努め、生徒の自主的、実践的な活動を促していくことが大切である。

また、学校生活においても、新しい友達や教師との出会いや、社会的関心の広がり、そして進路の選択など新しい環境や課題に直面していく時期である。そうした中、生徒は、人間としての在り方や現在及び将来における自己の生き方について模索し、進路の選択などにかかわる不安や悩みなど重要な課題に直面するが、個々の価値観が多様化し、人間としての在り方生き方にも様々な変化や問題点が生じている現代の社会にあつては、すべての生徒が在り方生き方を自覚し、これを深められるとは限らない。なかには、自己に不安をもち、自己を見失う生徒もあり、また、挫折や失敗にこだわって、自信のない生き方をしている生徒も少なくはない。特に、高校生の段階においては、理想を求めることに急で、とかく現実を否定する傾向も強まるため、生徒はこの時期特有の様々な不安や悩みをかかえることになり、生徒の中には、無気力傾向などに陥ったり、非行に走ったりする者も見られる。現実から逃避したり、今の自分さえよければ良いと考えたりする「閉じた個」ではなく、他者、社会、自然などの環境とのかかわりの中で生きるという自制を伴った「開かれた個」として成長していくことが大切である。そのためには、学校における多様な集団活動の充実を図るとともに、社会的な体験を重視し、人間としての在り方や生き方の自覚を深め、主体的に物事を選択し、現在及び将来を豊かに生きるための態度や能力を養う特別活動の充実が重要である。

## 第22回 東京都中学校生徒会長サミット 報告

- 1 開催日時 令和5年12月26日(火) 13時～16時(受付開始 12時30分)
- 2 参加方法 (1) 狛江市立狛江第一中学校にて対面  
(2) 島しょ地区については、Web会議ツールZoomを使用しオンラインで参加
- 3 ねらい 「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」をテーマとして、実践報告等に学び、各校の生徒会活動の充実を図る。  
他校との情報交換などを通して広く交流の機会を持ち、リーダーとしての資質や態度を育てる。
- 4 対 象 東京都公立中学校の生徒会長または生徒会役員
- 5 時 程 (1) 全体会(体育館) 13時～13時50分(50分)  
＜全体司会：狛江市立狛江第一中学校生徒会＞
  - ① 開会の言葉 狛江市立狛江第一中学校生徒会
  - ② あいさつ 東京都中学校特別活動研究会会長 滝沢 二三雄  
(品川区立鈴ヶ森中学校 校長)
  - ③ 実践発表  
江東区立深川第八中学校の取組  
町田市立つくし野中学校の取組
  - ④ 諸連絡 武蔵村山市立第四中学校 主任教諭 栗原 美絵
- (2) 生徒分科会(5分科会) 14時～16時(120分)
  - ① 情報交換及び協議会
  - ② コーディネーターより
- (3) 生徒会担当者研修会(多目的室) 14時～15時(60分)
  - ① 講師の講話

## 生徒会長サミット全体会報告

今年度は東京都の島しょ地区3校を含む62校の中学校、計146名の生徒会役員が参加し、開催された。全体会では、主催者を代表して東京都中学校特別活動研究会の滝沢二三雄会長の挨拶に続き、代表校2校である江東区立深川第八中学校と町田市立つくし野中学校の生徒会役員が自校の特色ある活動事例について発表した。その後、参加した生徒会役員が5分科会に分かれ、各校の活動内容や課題の共有、改善策の協議を行った。教員を志す大学生の参加もあり、全体会や分科会での生徒の様子を参観した。



## 実践発表① 江東区立深川第八中学校

### 【chromebook を活用した生徒会活動】

#### (1)chromebook 使用ルール改正

「休み時間の使用はNG!!」しかし、以下の2点の理由で、「休み時間も使えるようにしたい!」との声があり、使用ルールの見直しが行われた。

授業で学習したことを、その場で詳しく調べたい!  
chromebook で配信された課題を学校でも取り組みたい!



#### 『ルール改正までの流れ』

- ①中央委員会でアンケート内容の話合い

#### 『アンケート内容』

- (休み時間の使用状況、使用目的、メリットとデメリット、ルールが守れなかったら?)
- ②全生徒へアンケートの配布→集計
  - ③アンケート結果を基にした話合い
  - ④休み時間の chromebook 使用ルールの見直し

#### (2)オンライン目安箱の導入

オンライン目安箱について「chromebook の利便性を考え、より多くの意見を集め、よりフィードバックを早くし、よりよい八中づくりにつなげる。(目安箱の有効活用と自由度を上げる)

#### 『紙での目安箱のデメリット』

- ①全11クラスを回って目安箱をチェックすること  
(それぞれのクラスの意見を全員で確認)
- ②生徒会新聞「羅針盤」は、発行までに2, 3週間かかる  
(集約に時間がかかる、返答にも時間がかかる)

#### (3)オンライン目安箱の仕組み ~投書編~

GoogleForms を使用し、GoogleForms のURL を各クラスルームに投稿。

- ①悪口やいたずらのないよう注意喚起
- ②自分のメールアドレスで記録（アドレス検索ができるように）

(4)オンライン目安箱の仕組み ～投書編～

chromebook のドキュメントを使用。

- ①先生と相談して出た結論を、ドキュメントに掲載
- ②「返答用ドキュメント」として、各クラスルームに投稿

**オンライン目安箱は八中の教職員と生徒をつなぐ！！**

**実践発表② 町田市立つくし野中学校**

**【生徒会 実践報告】**

(1)活動内容

全校朝礼の運営 委員会活動の運営 中学校説明会 3年生を送る会 新入生歓迎会  
生徒会新聞の発行（校則について、定期考査の勉強法など）

(2)投書箱への意見を取り入れた校則の見直し

- ①式典時での黒紺靴下の着用が可能になった
- ②電子辞書の持ち込みが可能になった

(3)いじめ0宣言

『目的』

- ①生徒一人一人が「いじめ」に対して正しい意識をもち、自らの力で「いじめ」をなくそうとする実践力を身につける
- ②学校全体で「いじめ0」に関するスローガンを決め、学校全体で「いじめ0」に向けて取り組む

『個人・クラスでの取組』

- ①担任の先生がいじめに関する道徳授業の実施



**【実践例】 「いじり？いじめ？」という教材（アニメ動画）を使って道徳の授業**

- ②中央委員が「いじめ0宣言」のプリントを配布し、いじめの定義と実例を説明
- ③一人一人が「いじめ0」を宣言
- ④宣言カードを模造紙に貼り、クラスで掲示

『学校全体での取組』

- ①スローガンを募集
- ②良かったものを厳選し、中央委員会で発表・検討して決定

→決まった学校スローガンは、 **「見てるだけ」 そんな私は昨日まで**

- ③スローガンを生徒総会で発表し、廊下に掲示

## 生徒会長サミット分科会

今年度は、5つの分科会で協議を行った。「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」のテーマに基づいて、各校での生徒会活動の実践報告や他校との情報交換等を通して交流の場を設け、今後の生徒会活動の充実のために役立てる機会とした。

### 分科会で話題に出された内容 [一部紹介]

「より良い学校生活を送ってもらうためにできること～生徒会で企画立案・運営している内容や専門委員会と協力して実践した例」

- ・新入生歓迎会 ・エコキャップ運動 ・ノーチャイム週間 ・昼休みの体育館開放
- ・地域清掃 ・挨拶運動 ・意見箱の活用 ・生徒会新聞の発行 ・花植え
- ・マスコットキャラクター作成（各企画のPR等で使用） ・登下校の道広がり対策
- ・いじめ撲滅運動 ・生徒総会を有意義なものにするための工夫 ・運動会生徒会種目
- ・受験生応援メッセージ ・新入生説明会 ・三年生を送る会（縦割り班ごとの手紙、部活動ごとの出し物など） ・生徒会レク（体育館でクイズ大会など） ・ボールや傘の貸し出し
- ・空き教室を自習室に活用し、運営 ・リクエスト給食アンケート（給食委員会）
- ・昼の放送で生徒会からの意見を回答 ・学級委員と協力し、タブレットの使用について注意喚起
- ・小中一貫校で、小学生に対していじめ授業実施 等

「意見箱の活用について」

- ・職員室前の設置ではなく、生徒用下駄箱付近、階段の踊り場、学年フロア、各クラスに1つ設置する
- ・投稿する箱や記入用紙を親しみやすいデザインや目立つものにする
- ・給食時の放送でアナウンスをしてもらう
- ・生徒会発行の新聞で知らせる
- ・親近感がわき、答えやすいようなアンケートを実施
- ・どういう意見を出したらよいか分からない人がいるので、「これについて意見をください」というように募ってみる
- ・意見を出してくれた人に、生徒会新聞を通して返信をしたり、お手紙方式で返信をする
- ・できる限り、早めの回答を心がける
- ・校則の見直しに関する要望が多く、生徒会だけで解決できるものではなく困ってしまう
- ・職員室前に設置することでいたずらが減ったので、一概に悪いとは言えない

「意見箱のオンライン化についての各校の考えや取り組み」

- ・ アンケートを取るときの集計が楽になった
- ・ 人目を気にせず投稿できるのが良いという反応が多かった
- ・ 従来の紙ベースの意見箱よりも活用してくれる人が多い
- ・ 学習者用端末から投稿できるようにしたが、意見が多すぎて回答に時間がかかったり、そもそも開かなかったりする人が多い（毎日見たくなるような内容を配信する、見る時間を設けてもらう等）
- ・ 入力に苦手な人は活用しようと思わない（→そのため、紙媒体も併用していく）

「校則の見直しに関して実践できた例（意見箱から）」

- ・ 電子辞書の持ち込み
- ・ 学生服や上着を羽織らずセーターやカーディガンで校内生活を可とした
- ・ 冬の時期の防寒着でスクールコートだけではなくダウンジャケット等を可とした
- ・ 服装見直しについて、お試し期間を作り、実施。 等

「SNS やタブレットのルール、マナーについて」

- ・ 学習に関係ないことに使わないよう呼びかけ強化
- ・ 充電してくる習慣づけを呼びかける
- ・ 過去のルール、マナーを見直して改訂し、カードで配付したり、ポスターに教室掲示した

「生徒会活動の充実に向けて」

- ・ 定例会を開いて活動内容や進捗状況を確認する
- ・ 放課後は部活動で忙しいので、朝や昼休みの時間を使う
- ・ タブレットで記録をとっておき、参加できなかった人にも共有できるようにする
- ・ 校長先生と定期的に話をする機会を作る
- ・ 区内、市内規模で、この生徒会長サミットのように情報交換をする（オンラインを含む）

参加生徒の声（振り返りアンケートから）

- ・ 改めて学校をよくしようっていう目標に向かってどの学校も全力で取り組んでいることが分かり、もっと頑張ろうと思えた。また、成功した事例を聞いたため、それを活かしてどんどんよい学校にしていきたいと思った。
- ・ 校則改善など本校の課題について助言をもらえたこと。
- ・ 様々なアイデアに触れられ、是非本校でも採用したいと思う企画が見つかったこと。
- ・ 他にどんな取り組みができるか自分たちだけで気付かなかったことに気付けた。

- ・いつも自分達の学校の中でしか情報交換ができなかったが、他の学校と情報交換をすることで、自分達の参考になるようなことがたくさん分かった。
- ・自分の学校で実際に行っている活動でも、やり方が異なっていて、試してみたいと思った活動や、自分の学校で実際に行っていないけど取り入れてみたいと思った活動が多かったです。また、様々な視点から課題などの解決策を考えたりなどの話合いも活発に行うことができて良かったです。
- ・自分たちの学校で困っていることを共有し、検討できそうなことが見つかった。
- ・分科会の机を班にして様々な学校とテーマに付いて話し合う事ができるのが良かった。
- ・知りたい意見を知ることができたこと。全体会では、代表校の発表がとてもわかりやすく、勉強になった。
- ・他校の取り組み状況やその成果について聞くことができ、今後の生徒会活動に繋げられると感じた。
- ・各学校のリーダーとなっている人と交流でき、とてもいい経験になった。また各学校で同じ問題を抱えているという点もあれば全く違う問題を抱えている学校もあって、その問題に対しても意欲的に解決しようとする事が出来た。自分たちの生徒会活動のヒントとなるものがたくさんあった。
- ・自分の生徒会が抱えている問題について全体で議論できた。
- ・今回のサミットのおかげで、新しいことに挑戦するきっかけになった。
- ・活動する上での課題をみんなで話し合えたことがよかった。
- ・いろいろな市区の生徒会の方と交流ができ、さらに意見交換や話し合いができてよかったです。
- ・遠く離れた学校でも自分たちと似たような学校運営における悩みをもって、話し合うことが出来たこと。具体的な対策案やアドバイスをもらえたこと。
- ・新たな生徒会活動に出逢えたこと。
- ・意見が行き詰まっていたので様々な意見を聞いてよかった。
- ・今後、より参加する学校が増えて様々な学校の多くの生徒会本部の方と交流を深められることを期待しています。それぞれの学校の良いところを知り、それを取り入れることができるようになること。
- ・本サミットをきっかけに、他校との関わりをもっと深めたい。
- ・これからも多くの学校が良い意見を共有し、その意見を参考にして自分たちの学校をより良くしていきたい。
- ・特定の学校だけでなく、色々な学校の特色に触れることができるため、さらにそれぞれの学校の活動が良くなることを期待しています。

【サミットの様子】



## 第51回 全日本中学校特別活動研究会埼玉大会 報告

令和5年8月7日（月）、埼玉県さいたま市・埼玉会館から配信するオンライン方式で、標記の研究大会が開催されました。全日本中学校特別活動研究会報告より、掲載いたします。

### 【午前 全体会】

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・佐藤学様を始めとする多くのご来賓の皆様のご臨席の下、全体会を行った。全日中、埼玉特活の両主催研究会の会長挨拶に加え、開催地である埼玉の埼玉県教育委員会教育長、さいたま市教育委員会教育長からのメッセージも読み上げられ、カメラの向こう側にいる全国各地から申し込みをした約120名の一般参加者に向けて開会のメッセージを力強く発信した。



< 開会行事 >

### 講演会

演題 「多様な他者と協働する力を育む特別活動」講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課  
講師 教科調査官 佐藤 学 先生

#### ○はじめに

令和4年12月に出された中教審答申において、新たな教師の学びの姿の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成が求められている。教師の学びと子供たちの学びは、相似形として捉え、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を通じた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことが重要である。

#### ○レジリエンスを備えた社会の構築

将来の予測が困難である「VUCA」の時代をむかえて子供たちを取り巻く環境は厳しさを増している。このような時代に対応するために、第四期教育振興基本計画では、レジリエンス（強靭さ）を備えた社会を構築することが重要な課題であると示された。子供たちのレジリエンスを高めるには、「失敗を恐れず行動し、失敗から学ぶこと」が重要である。そのためには、児童生徒同士の人間関係や教師と児童生徒の信頼関係を基盤とした他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気醸成することが欠かせない。今こそ「人と人をつなぐ」特別活動の充実が求められている。

#### ○特別活動の成果と課題

特別活動の成果として、社会で生きて働く力を育むことや生活集団や学習集団の基盤を醸成すること、学校文化の創造に寄与することなどが挙げられる。一方で、資質・能力の向上を意識せずに指導が行われてきたという課題がある。

滋賀県栗東市立栗東中学校では、三年間を通した指導計画を作成し、学級会の流れを全校で統一した。また、学級会を通してどんな力が身に付いたのか教職員で共通理解を図ってきた。特別活動の研修を通して「自分たちの学校を自分たちの力でよりよくする」というように生徒の意識が変容した。教師の意識も「生徒主体」を目指すように変革し、まさに生徒主体の学校づくりが行われている。



< 佐藤先生の講演 >

○おわりに

子供たちは、多様な他者と協働することで、現在の自分を発見し、社会を創り出していく。特別活動の実践がつながることで、子供たちの生きる未来が明るくなっていくのである。

## 【昼 理事会】

全日中の令和5年度総会、各県から参加した理事による情報交換、そして次年度開催となる神奈川・相模原市の取組に支援することを確認し、今年度の理事会を終えた。

## 【午後 分科会】

3分科会による実践提案および研究協議会を行った。それぞれの分科会において、全国と埼玉より1つずつ提案する形で行った。リモート開催でありながらも実践提案を受け、積極的な質疑応答がなされる活発な研究協議会となった。また、指導助言者から貴重なご指導をいただいた。中学校だけでなく小学校の先生も多数参加しており、小中の実践をつなぐ貴重な学びの場となった。

全国の先生方と特別活動に対する熱い想いを語り合うことで、特別活動の実践もつなげることができた分科会となった。

## 分科会 A 学級活動

### 《 実践提案Ⅰ 》

提案題 「相手意識を持ちながら、仲間と協働し豊かな生活づくりに取り組む生徒の育成  
～3年生に感謝を伝える卒業を祝う会を通して～」

提案者 埼玉県川越市立寺尾中学校教諭 藤館 奈美 先生

### 【研究協議の主な内容】

- ・提案理由の明確化がよくはかられていて話し合うことの必要感が感じられた。
- ・学級会の形式を学校で共有することや話しやすい人間関係を築くことが大切である。

### 《 実践提案Ⅱ 》

提案題 「異なる考えや価値観を認め合い他者と協働する力を育む学級活動の工夫」

提案者 東京都東村山市立東村山第五中学校指導教諭 吉川 滋之 先生

### 【研究協議の主な内容】

- ・学級活動(1)で行うなら卒業に向けてよりよい学級にするための係をつくろうという議題で話し合ってもよいのではないか。
- ・次の活動に向けて学級では何ができるかという視点で話し合うのもよい。

〈 指導・助言 〉 指導者 埼玉県羽生市立須影小学校長 樋口 成久 様

- ・話し合いのキーワードを設定する上で、①子供たちに取り組みせたい道徳的価値があるものか、②話し合いが深まるのか、③考える上で機能するものか、という三つの視点をもつことが重要である。
- ・一人一人の行動目標を決めることは、学級活動(2)、(3)で扱う。学級活動(1)では、学校行事への取組や集会活動について、生活上の課題についてできるだけ多くの意見のよさを生かして合意形成をする。
- ・よりよい合意形成につなげるには、みんなのため、誰かのためという視点が重要である。

## 分科会 B 生徒会活動・学校行事

### 《 実践提案Ⅰ 》

提案題 「よさや可能性を發揮し合い、多様な他者と協働する力を育む生徒会活動  
～ネット利用意識向上期間の取組を通して～」

提案者 埼玉県加須市立加須北中学校教諭 野中 翔平 先生

#### 【研究協議の主な内容】

- ・生徒会活動だけがうまくいく学校はない。学級会の経験が基盤となる。
- ・生徒会活動でもアンケート集計などにICTを活用することができる。

### 《 実践提案Ⅱ 》

提案題 「義務教育学校における特別活動 ～児童会と生徒会の取り組み～」

提案者 大阪府守口市立さつき学園教諭 工藤 奈緒 先生、小林 春菜 先生

#### 【研究協議の主な内容】

- ・小中をつなげる活動や学年をまたいだ活動などにICTを活用できるのではないかな。
- ・生徒たちに何のために活動をするのか明確にすることが大切になってくる。

〈 指導・助言 〉 指導者 共栄大学 教育学部長 濱本 一 様

- ・小中一貫教育を進めるうえで学校行事、求める児童生徒の姿、学年教育目標につながりをもたせ、一つ一つが点とならず線で結んでいくことが重要である。
- ・「あいさつキャンペーン」などで競わせることは危険性もある。危険性もあることをよく考えてから実践をする。
- ・地域・保護者とつながるための要素は、「互いに知ること」である。生徒会を中核にしてつながりをつくることが重要である。

## 分科会 C 小中一貫教育

### 《 実践提案Ⅰ 》

提案題 「自ら考え、協働して実践する子の育成  
～「大里中学校区における小中一貫の学級活動(1)の研究」を通して～」

提案者 埼玉県熊谷市立大里中学校教諭 高橋 洋 先生

#### 【研究協議の主な内容】

- ・学級での自発的、自治的な活動が学校行事や生徒会活動に発展した。
- ・学級での計画委員会の活動時間の確保はどのようにしたらよいか。

### 《 実践提案Ⅱ 》

提案題 「よりよい人間関係や豊かな生活をつくる学級活動の指導  
～小中一貫した学級活動の指導～」

提案者 栃木県鹿沼市立北押原中学校教諭 菊地 智美 先生

#### 【研究協議の主な内容】

- ・小学校からの積み重ね、経験が学校行事や生徒会活動に生かされている。
- ・年度当初の研修会や小中合同研修会で教職員の共通理解を図った。生徒の変容から、教師の意識も高まった。



〈 分会の様子 〉

〈 指導・助言 〉 指導者 元文部科学省初等中等教育局視学官 宮川 八岐 様

- ・学級活動において「①指導観、②年間指導計画、③学級活動2つの指導法、④運営組織及び活動形態、⑤指導案」を一貫することが重要である。
- ・小中一貫の学級活動を充実させるために「年度初めの学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」を通して望ましい集団活動を展開していく。
- ・小中一貫教育を進めることで生徒が変わり、教員の意識も変わっていく。小中ともに望ましい集団活動の経験を積み重ねていくことが大切である。

## 東京都教育研究員中学校・高等学校合同特別活動部会研究発表会の報告

- |   |     |              |
|---|-----|--------------|
| 1 | 日 時 | 令和6年2月16日（金） |
| 2 | 場 所 | 千代田区立麴町中学校   |
| 3 | 内 容 | 授業公開・研究発表全体会 |

令和6年2月16日（金）に開催された、東京都教育研究員中学校・高等学校合同特別活動部会研究発表会に滝沢会長が講師として指導助言を行いました。本会の事務局員も1名教育研究員として参加しました。

今年度は5名の中学校の先生（千代田区立麴町中学校、品川区立鈴ヶ森中学校、足立区立第十二中学校、小平市立小平第四中学校、小平市立小平第六中学校）と1名の高等学校の先生（東京都立三田高等学校）からなる部会が発足し、1年間に亘る研究の成果として研究授業と研究発表全体会が行われました。

研究主題は、「互いのよさを認め合い、自己の可能性を発揮する資質・能力の育成を目指す学級活動・ホームルーム活動の工夫～多様な他者を尊重した協働的な学びの充実～」です。この研究主題は、学習指導要領解説総則編に記載されている「急速な社会の変化の中で、一人一人の生徒（児童）が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」「一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくこと」や、孤独・孤立対策推進会議（令和4年12月 内閣官房）から示された「人と人とのつながりを実感できることが重要」という内容を踏まえ、特別活動を通して育成すべき資質・能力として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を柱とし、「自己と他者、そして集団」のつながりを強め、目指す生徒像「多様な他者を尊重して、人間関係を構築できる生徒」を達成するために設定されていました。

そして、研究仮説を「学級活動・ホームルーム活動において、生徒が学校や学級における生活をよりよくするための課題を見だし、多様な他者と協働的な学びを通して合意形成を図ることができれば、互いのよさを認め、自己の可能性を発揮する力を育てることができるだろう」とし、研究を進めていました。

検証授業を行う中で取り組んだ工夫は主に2点がありました。それぞれの工夫について、具体的に取り組んだ点も含めると、以下の工夫がありました。

- (1) 生徒自らの課題を発見する方法の工夫
  - ① アンケートの実施
  - ② 付箋や一人1台の学習者用端末の活用
  - ③ 話合いのルールの設定と確認

(2) 互いのよさを認め、自己の可能性を発揮できる話合いの活動の工夫

- ① 一人1台の学習者用端末の活用
- ② 少数意見についても取り扱う話合い活動

検証授業は全3回行っていました。「Research（アンケートを実施し、実態把握を行う）」を出発として、PDCAサイクルで進めていました。1回目の検証授業は足立区立第十二中学校、2回目の検証授業は小平市立小平第四中学校、3回目の検証授業は東京都立三田高等学校にて行われました。

いずれの検証授業でも、授業の前と後で採ったアンケートから、肯定的な変容が認められていました。特に向上した項目は、「意見や考えが違っていても、自分が正しいと思うことを主張できるか（人間関係形成に関するアンケート）」「私は学級の課題解決や目標達成のために行動している（社会参画に関するアンケート）」「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる（自己実現に関するアンケート）」とありました。この結果から、「よりよい学級にするための課題を見付け、学級の仲間を互いに認め合いながら話合い活動ができた」「生徒自身の意識や行動に変化が見られた」と報告されました。

研究の成果として、(1)自分と他者のよさを認める意識の向上(2)身に付けた資質・能力を活用させる指導の工夫、の2点が挙げられていました。研究の課題としては、(1)「よりよい人間関係」についての検証不足(2)少数意見の取り扱い方や学級全員での合意形成(3)校種のつながり・身に付けた力の相互理解、の3点が挙げられていました。

順番が逆になりましたが、これらの研究の集大成として、授業公開が行われました。議題は、「『理想の3年生の姿』に向けて現在の課題解決について話し合おう」で、学級活動(1)アとして扱われていました。活動の開始で「学級委員から開会の言葉、議題の確認、提案理由の説明」を行い、活動の展開で「個人で考える、班で話し合う、出し合った意見について合計形成を図る、他の班の意見を見て自分たちの意見を修正する、班ごとに発表する」を行い、まとめて「決定事項の確認、自己評価・感想の記入、学級委員から閉会の言葉」を行っていました。

一人1台学習者用端末を活用したり、小集団で合意形成を図ったり、学級委員が進行の中心となって生徒主体の取組が行われていたり、1年間の研究の集大成として生徒がよく取り組んでいた内容でした。

質疑応答ではいくつかの質問がありました。

- (質問1) 班での活動のみで、学級で合意形成を図っていないのはなぜか。
- (質問2) 教師が全く話(開始時の助言やまとめの言葉)をしないのはなぜか。
- (質問3) 小集団でも意見を出せない生徒に対する指導はどうするのか。
- (質問4) 中学校と高等学校での取組に違いはあるのか。

などです。

これらの質問に対しては、教育研究員の方から1つ1つ丁寧に回答されました。内容としては1年間研究を進め、分かってきたところとまだたどり着けていなかったところがあるようでした。小学校の特別活動指導教諭の方の意見や他県の特別活動研究会の方の意見を会場全体で共有し、特別活動の在り方について理解を深める有意義な質疑応答となりました。

最後に本会滝沢会長より指導講評が行われました。今年度の教育研究員の研究のキーワードは「よさを認め合い、自己の可能性を発揮」「学級活動・ホームルーム活動」「多様な他者との協働的な学び」「中学校・高等学校合同の部会」ということが挙げられていました。視点を定めて学級活動の在り方を研究してきたことで、生徒の変容が見られたことについて、今年度の研究の有意性を話されました。また、今後の課題としては、検証授業から「学級全体の合意形成をどのように行うのか」「個人思考の時間がとれなければ最初は班から始めてもよいのではないか」「決めたことを実践し、振り返りを行うことが大切である」「話し合うことが目的ではなく、実践するための話し合いを行う」といった話もありました。



そして、改めて特別活動における学習の過程を図で示し、事前・事後の活動と次に繋げる流れが大切であると話されていました。「小学校学習指導要領解説特別活動編には、P68、P70、P73にこれらのことがまとめられていて、中学校や高等学校も参考にして指導にあたるとよいです」とありました。

その他に、以前の学習指導要領までは記載されていた「望ましい人間関係」について説明があり、「よりよい集団」としての在り方についても説明がありました。

最後に、品川区立鈴ヶ森中学校で実践した「いじめ防止の取組」、江戸川区立中学校3年生対象に行ったアンケート調査結果、練馬区立大泉学園中学校で行われた研究発表の内容といった特別活動に関する実践例についても話がありました。

「今年度は東京都教育委員会が特別活動カンファレンスを行ったり、エジプトでは特別活動（TOKKATSU）を取り入れた学校教育が進められたりしています。これからも特別活動は重要となっていくでしょう」という話でまとめられました。

1年間研究を進めてきた研究員の皆さん、本当にお疲れ様でした。今後も特別活動を充実させ、すべての生徒が「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の力を伸ばしていく教育を実践してください。皆さんの今後の活躍に期待しています。

(文責：藤本 謙一郎)

# 令和5年度東京都教育研究員報告会 特別活動部会

令和6年2月16日(金)  
品川区立鈴ヶ森中学校 校長 滝沢 二三雄

## 研究主題

互いのよさを認め合い、自己の可能性を發揮する資質・能力の育成を目指す学級活動・ホームルーム活動の工夫  
～多様な他者を尊重した協働的な学びの充実～  
＜キーワード＞

よさを認め合い、自己の可能性を發揮、学級活動・ホームルーム活動、多様な他者、協働的な学び  
※中高の合同の研究員

## 調査研究

生徒の実態把握と課題  
(学級活動・ホームルーム活動におけるアンケートの実施)

- ★「人間関係形成」⇒多様な他者を尊重して、人間関係を構築できる生徒(1～5)5問
- 「社会参画」⇒集団の様々な問題を主体的に解決できる生徒(6～11)6問
- 「自己実現」⇒自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする生徒(12～18)7問

## 実践研究

活動の工夫

- 生徒が学級の課題を発見し、具体策を考え、役割を分担するための**事前アンケート**
- 互いのよさを認め、自己の可能性を發揮できる話し合いにするための**一人1台の学習用端末の活用**
- 学級の意見を事前に記録し、まとめておくことで合意形成を図りやすくするための**一人1台の学習用端末の活用**

## 検証授業について

- 1 学級の課題の解決に向けて話し合いを行い、よりよい学級の生活づくりについて考えよう。(中学校2学年)足立十二中
- 2 合唱コンクールに向けて、学級の課題解決について話し合い、学級の取り組みを決定しよう。(中学校2学年)小平四中
- 3 合唱コンクールに向けて、よりよいホームルームに成長するためのスローガンを決めよう。(高等学校1学年)三田高校
- 4 「理想の3年生の姿」に向けて現在の課題解決について話し合おう。(中学校2年生)本日2月16日(金)麹町中

## 本時の検証授業について

- 1 生徒の様子について
- 2 授業の流れについて
- 3 合意形成について
- 4 今後の課題について
  - ・学級全体の合意形成は考えなかったのか。
  - ・個人で話し合う時間がない場合は、初めから班での話し合いから始める
  - ・決めたことを実践し、振り返るをすることが大切
  - ・話し合うことは目的ではない、実践のための話し合い

## 成果と課題

<成果>

- 1 自分のよさを發揮しようとする意識の変容
  - ・アンケートより
- 2 事前指導を充実させた効果的な話し合い活動
- 3 全員で合意形成を図るための工夫
  - ・全員で合意形成を図れたのか、何のための合意形成なのか
- 4 観点別のアンケートの作成
  - ・資質・能力を育む3つの視点
- 5 中学校・高等学校での実践

## 特別活動における学習の過程

特別活動における学習過程(小・中・高)

・学習過程において生徒が自発的・自治的な学級や学校の生活づくりが実感できるような一連の活動を意識して指導に当たる必要がある。

<学級活動>

(1)



## 特別活動における学習の過程

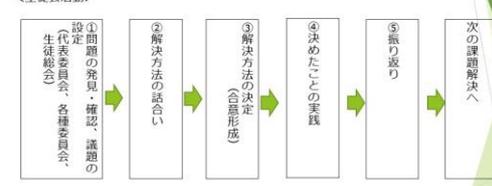
<学級活動>

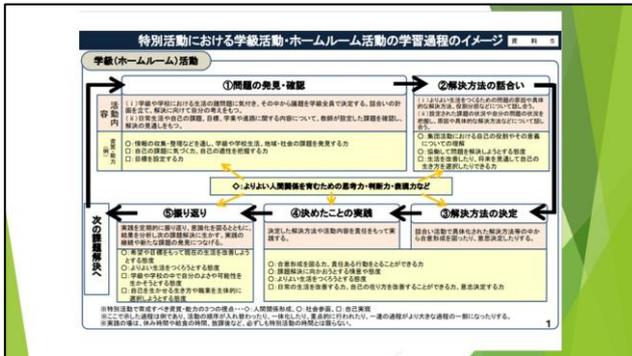
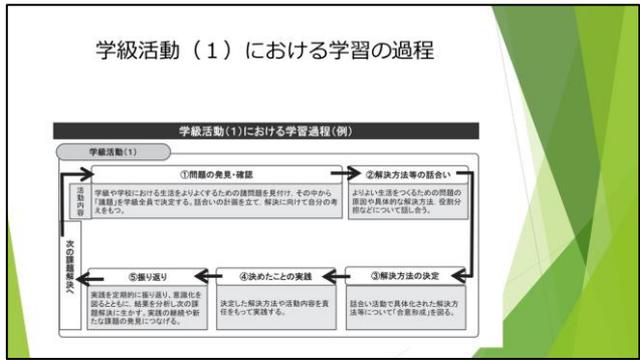
(2) (3)



## 特別活動における学習の過程

<生徒会活動>





### 小学校学習指導要領解説より

イ 1 単科時間の指導計画

① 学級や学校における生活づくりへの影響、② 指導の1 単科時間の指導計画に示す例には、例えば、次のようなものが考えられる。

- 議題
- 児童の関心と議題決定の理由
- 育成を目指す資質・能力
- 事前の活動（本時に至るまでの活動の概観）
- 検討のねらい
- 児童の活動計画

教師の適切な指導の下に児童が作成する「児童の活動計画」に示す内容は、例えば、次のようなものが考えられる。

- 議題
- 評議委員会の役割分担
- 提案理由や話し合いのねらい
- 決まっていること
- 話し合いの順序
- 決を付けること
- 準備

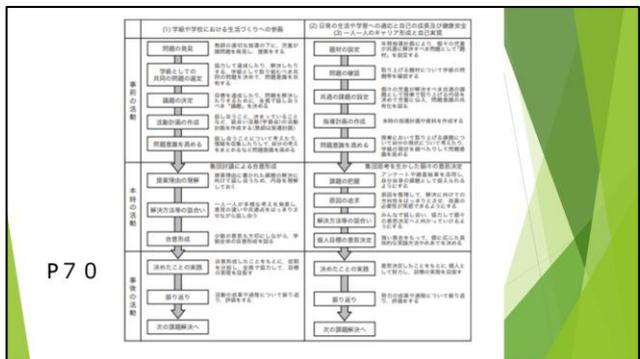
○ 教師の指導計画（指導上の留意点）

○ 使用する教材や資料

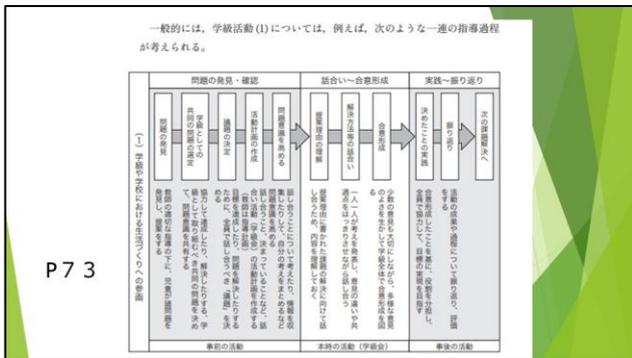
○ 事後の活動

○ 評価の観点

P 6 8



P 7 0



P 7 3

### 成果と課題

<課題>

- 1 生徒がよりよい人間関係とはどのようなものかを理解すること
- ・前の学習指導要領に「望ましい人間関係」についての記載がある。
- 2 場面に応じた一人1 台の学習者用端末の活用
- ・これからどんどん使うようになっていく。
- 3 小学校・中学校・高等学校の連携
- ・中学校と高等学校の連携の難しさ
- ・小学校の学習指導要領解説を参考に

### 旧学習指導要領より

#### 学級活動で育てる「望ましい人間関係」

<小学校>

○楽しく豊かな学校生活づくりのために、互いに尊重しよさを認め合えるような人間関係

※低学年：仲良く助け合おうとする人間関係

※中学年：協力し合おうとする人間関係

※高学年：信頼し支え合おうとする人間関係

<中学校・高等学校>

○豊かで充実したが学級・ホームルーム生活づくりのために、生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係である。

### 実践事例紹介

#### 鈴ヶ森中学校の事例

- 1 品川区には特別活動がありません。
  - 一市民科として特別活動・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間を統合して実施しています。
  - 一でも、学級活動・生徒会活動・学校行事はあります。
  - 一学活は市民科と表示されるが、中身は学級活動
- 2 生徒会役員が生徒会サミットに参加
  - 一生徒会が活動に意欲的になり、いじめ撲滅に向けた活動を開始
  - 一いじめの授業の実施
  - 一いじめのない学校にするために学級でできることについて考えよう
  - 一学級会でできることを話し合い決定する

## 特別活動のこれから

- 1 特別活動の話合い活動は、アクティブ・ラーニングそのもの
- 2 特別活動の充実は、不登校・いじめ対策になる。
- 3 子供を幸せにするのが学校
  - ・個別最適な学び・協働的な学び
  - ・人生を豊かにするのは「人間関係」
- 4 東京都も本年度から特別活動のカンファレンスとして本腰を入れてきた。
- 5 世界も「TOKATTU」として取り入れ始めている。

## 講師派遣事業 報告

本会には、指導教諭、認定講師をはじめ、特別活動に関わる指導助言や講演を行える会員が所属しています。令和5年度に依頼があった活動について、報告いたします。

日付	派遣先	派遣講師	内容
5月31日(水)	練馬区立大泉学園中学校	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・指導教諭)	特別活動の充実と学級づくり ～学級活動の取組を通して～
6月 7日(水)	葛飾区中学校教育研究会	藤本 謙一郎 (練馬区立大泉学園中学校・副校長 特別活動認定講師)	よりよい社会の創り手となる資質・能力を育む特別活動の創造
9月 6日(水)	葛飾区立東金町中学校	藤本 謙一郎 (練馬区立大泉学園中学校・副校長 特別活動認定講師)	主体性や自主性の育成を目指した教育活動の在り方 ～学校行事や生徒会活動を通じた自発的・自治的な集団の育成～
10月 4日(水)	福生市教員研究会	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・指導教諭) 藤本 謙一郎 (練馬区立大泉学園中学校・副校長 特別活動認定講師)	主体的に学び続ける児童・生徒の育成 ～義務教育9年間で育む資質・能力を共有した授業実践を通して～
11月 1日(水)	町田市中学校教育研究会	佐々木 辰彦 (東村山市立東村山第三中学校・元全日本中学校特別活動研究会会長)	互いの理解を深められるような学級活動について
11月 1日(水)	台東区中学校教育研究会	藤本 謙一郎 (練馬区立大泉学園中学校・副校長 特別活動認定講師)	生徒の自主的、実践的な集団生活を通し、人間関係を形成し自己実現を図る特別活動
11月10日(金)	檜原村立檜原小学校	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・指導教諭)	自発的・自治的な態度を育む指導の工夫 ～特別活動の果たす役割と小中の接続について
11月15日(水)	世田谷区立教育研究会 特別活動研究部	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・指導教諭)	特別活動を要としたキャリア教育の充実～学級活動の実践を通して
1月23日(火)	文京区中学校特別活動 教育研究会	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・指導教諭)	生徒の自主的・自発的な活動を通して、よりよい社会参画を目指す学級活動の工夫 ～教育DXの視点を踏まえて～

日付	派遣先	派遣講師	内容
1月24日(水)	練馬区立豊玉中学校	吉川 滋之 (東村山市立東村山第五中学校・ 指導教諭)	未来の社会をつくる「学びの主体 者」の育成 ～学級活動の実践を通して～
2月16日(金)	東京都教育研究員 研究発表会	滝沢 二三雄 (品川区立鈴ヶ森中学校・校長 東京都中学校特別活動研究会会長)	互いのよさを認め合い、自己の可 能性を発揮する資質・能力の育成 を目指す学級活動・ホームルーム 活動の工夫 ～多様な他者を尊重した協働的な 学びの充実～

# 東京都中学校特別活動研究会 会則

## 第1章 総 則

第1条 この会は東京都中学校特別活動研究会といい、会長校に事務局をおく。

第2条 この会は東京都における中学校の特別活動の振興を図ることを目的とする。

第3条 この会は前条の目的を達成するため次のことを行う。

1. 特別活動に関する研究調査
2. 特別活動に関する講演会、研究会等の開催
3. 各種機関・団体との連絡、提携に関すること
4. その他本会の目的を達成する事業

第4条 この会は東京都と特別区、市町村教育委員会を単位とする研究団体、学校等をもって構成する。

## 第2章 役 員

第5条 この会は次の役員をおく。

会長	1名	副会長	事務局各部長、副部長から若干名
事務局長	1名		
理事	(区市町村各1名)		
会計	2名	会計監査	2名

第6条 会長・副会長は理事会で選出する。理事は区市町村の推薦により会長がこれを委嘱する。

会計、会計監査は理事会で互選する。

事務局長は、会長が委嘱する。

第7条 会長はこの会を代表しその責任を負う。副校長は会長を補佐し、会長が事故あるときは代行する。

理事は理事会において重要事項を審議し議決する。

事務局長は、事務局を統括し、会務運営を担当する。

会計はこの会の会計事務つかさどる。

会計監査はこの会の会計を監査する。

第8条 役員の任期は1年とする。但し留任することができる。

第9条 この会は、会友、参与をおくことができる。

### 第3章 執行機関

第10条 本会の会務を遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局次長1名のほか、事務局員をおく。

第11条 事務局には、研究部、編集部、広報部をおく。  
各部には、部長、副部長、部員をおく。

第12条 各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

### 第3章 会 議

第13条 この会の会議は次の通りとする。

1. 総会
2. 理事会

第14条 総会は会長が招集し毎年1回開催する。但し必要に応じて臨時に開くことができる。

第15条 総会の議決は出席者の多数による。

1. 予算の決議及び決算等の承認
2. 会則の変更
3. その他の重要事項

第16条 緊急やむえない事情により総会を開くことができない場合は、理事会の決議をもってこれをかえることができる。この場合は次の総会で承認を受けるものとする。

第17条 理事会は会長が召集し、会議の議長は会長があたる。なお、事務局長が参加するものとする。

### 第4章 会 計

第18条 この会の経費は会費及びその他の収入でこれをあたる。

第19条 この会の会費として年額下記の金額を負担する。  
単位研究団体 1校 1000円の割  
学校単位での入会した場合 1000円とする。

第20条 この会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### 附 則

この会則は、昭和47年4月1日より実施するものとする。  
平成24年5月12日 一部改正する。

令和5年度 東京都中学校特別活動研究会組織 (令和5年10月1日現在)

役 職	氏 名	勤 務 校	電 話	F A X	職 名
会 長	滝沢 二三雄	品川区立鈴ヶ森中学校	03-3765-2849	03-3765-2751	校 長
副会長	荒巻 淳	江戸川区立松江第五中学校	03-3652-7946	03-5662-2969	校 長
副会長	荒木 忍	東村山市立東村山第二中学校	042-391-9112	042-397-5416	校 長
副会長(顧問)	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
事務局長	瀬戸 完一	葛飾区立高砂中学校	03-3658-5194	03-5694-0469	副校長
事務局次長	植木 俊孝	小金井市立南中学校	042-383-1105	042-382-0405	主任教諭
会計部長	藤本 謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	03-3925-4492	03-5387-2294	副校長
副部長	岩崎 航太	小平市立小平第二中学校	042-341-0244	042-341-1962	主任教諭
研究部長	吉川 滋之	東村山市立東村山第五中学校	042-391-9115	042-397-5419	指導教諭
副部長	大塚 隆弘	江東区立第二南砂中学校	03-3699-1591	03-5690-4040	主幹教諭
	安藤 大	江戸川区立瑞江中学校	03-3651-2210	03-3651-0680	教 諭
	吉田 義和	江戸川区立松江第四中学校	03-3652-7591	03-3652-7592	副校長
	芝崎 豊	千代田区立麴町中学校	03-3263-4321	03-3263-4339	主任教諭
	五十嵐 拓	江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	教 諭
	井上 稚恵	杉並区立井荻中学校	03-3399-0035	03-3399-0854	教 諭
	田村 秀紀	渋谷区立渋谷本町学園中学校	03-3373-3201	03-3373-3215	教 諭
	根本 千郷	葛飾区立小松中学校	03-3653-1436	03-5607-0781	教 諭
	新倉 拓未	杉並区立泉南中学校	03-3313-2361	03-3313-8914	教 諭
編集部長	藤本 謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	03-3925-4492	03-5387-2294	副校長
副部長	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
	猪越 孝一	大田区立大森第十中学校	03-3752-4245	03-3752-4247	副校長
	西本 静	江戸川区立松江第六中学校	03-3656-6711	03-3656-6774	教 諭
	三枝 剛	江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	主幹教諭
	向井 一真	江戸川区立小岩第一中学校	03-3659-7291	03-3659-7292	教 諭
	原 奈都子	江戸川区立瑞江中学校	03-3651-2210	03-3651-0680	非常勤教員
	大橋 えり	葛飾区立常盤中学校	03-3607-1122	03-5699-1513	主任教諭
	真辺 草平	足立区立入谷南中学校	03-3897-9919	03-3897-9927	教 諭
	小林 将也	練馬区立開進第四中学校	03-3993-1481	03-5984-3277	教 諭
広報部長	谷口 典夫	狛江市立狛江第一中学校	03-3480-0121	03-5497-7361	教 諭
副部長	栞原 美絵	武蔵村山市立第四中学校	042-564-4341	042-563-9149	主任教諭
	鶴岡 友樹	足立区立加賀中学校	03-3857-1121	03-3857-1122	主任教諭
HP	小野 貴史	足立区立第四中学校(夜間学級)	03-3887-1466	03-3887-6066	主任教諭
HP	高木 真実	足立区立第四中学校(夜間学級)	03-3887-1466	03-3887-6066	教 諭
	酒井 寛子	板橋区立志村第四中学校	03-3966-9426	03-3966-9426	教 諭
	横山 清貴	江戸川区立篠崎中学校	03-3679-3001	03-3679-3216	教 諭
	田中 識啓	江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主幹教諭
会計監査	大熊 恵子	練馬区立田柄中学校	03-3990-4403	03-3577-7999	主任教諭
会計監査	鈴木 啓之	江戸川区立松江第二中学校	03-3651-2546	03-3651-8223	校 長
顧 問	佐々木 辰彦	東村山市立東村山第三中学校	042-564-5411	042-590-7030	
顧 問	美谷島 正義	狛江市教育支援センター	03-3430-1311	03-3430-1500	センター長
顧 問	長谷川 晋也	墨田区適応指導教室ステップ学級(指導員)	03-5608-6919	03-5608-6919	
顧 問	松本 康夫	東村山市教育委員会社会教育課	042-393-5111	042-393-6846	